

第二回 高一国語

総評

評論、小説、古文、漢文について、苦手な分野を作らず、バランスよく国語の力を伸ばしていきたい。高一の現時点では、古文、漢文の学習状況によって、点数の差がつきやすく、今回の模試でもその傾向が見られた。古典で思うように得点できなかった人は、まず、単語の意味や文法事項、句形の知識などの基礎をしっかりと身につけよう。基礎固めがこの先の伸びにつながるので、今回間違えたところはきちんと復習しておくことが大切だ。

問題別講評・採点基準

一 評論

(一) 熟語は、一字でも誤りを含んでいたら不可。
(c) 「過敏」の「敏」を「悔」や「便」とする誤りが目立った。(d) 「潤滑油」の「潤」を「順」「循」とするもの、「滑」を「活」とする誤りが多い。形の似た字や読み方の同じ字に注意しよう。

(二) Xはまずまずの出来。Yは苦労した人が多かったようだ。空欄のあとの逆接の「が」に着目し、《現実ではないもの》といった内容の選択肢を選びたい。

(三) 「採点基準」

「子どもがa両親からの b精神的な拘束に距離を置くことで、自我のc自由とそれに基づく d自律

性を獲得する」と説明して

—— 11点

* a 1点、b 4点、c 3点、d 3点。

a b cの要素を押さえ、dが欠けている答案が目立った。傍線(1)の直後の二文をもとにすると、ほぼ制限字数に達し、a b cの要素を含んだ答案となる。そのあとに続くd「自律性」まで答えに含めるには、表現の調整が必要。無駄な表現を省き、全ての要素を端的に盛り込んでいるよい答案も見られた。

(四) よく読解できている答案が多かった。

(五) 「採点基準」

「a成長すると子どもその意味が理解できなくなる上、b相互の信用に依存し、人格と行為の自律性を尊重する近代社会では、cうそは正直というモラルへの背信とみなされる」と説明して—— 15点
* a 3点、b 6点、c 6点。

最終段落の近代社会の特徴からまとめた答案が多く、よいところに着目できている。ここを使えば、b cの要素を押さえられるが、もう少し広い範囲に目を向けるとさらによい。傍線(3)の少しあとに「…：要因のみではない」とあるため、この前に書かれていることも要因として挙げられると判断できる。

(六) 本文全体が対象となる内容合致問題で、選択肢が三行と長く、本文の該当箇所と比較して丁寧に検討する必要がある。誤答は比較的(7)が目立った。解説をよく読んで復習しておこう。

二 小説

(一) 「採点基準」

「a貧しい環境に生育した者として、b貧者のために尽力する」と説明して—— 8点

* a 4点、b 4点。

傍線(1)のあとの文から「貧乏百姓の倅」という言葉を用いてaの要素を押さえた答案が多かった。一方、bの要素が欠落している答案が目立つ。7行目に「貧乏人の味方になって、貧乏人がもつとらしくに生きて行く社会が生れるために、自分の小さい力を使いたい」とあるので、この部分からbの要素を押さえたい。

「自分の家柄や社会的地位を自覚している」などの答案もあったが、具体的に「貧しい」という要素を明記することが大切。また、「渡米を考える余裕がない」「自由を求める身分ではない」などの否定的な理由を記している答案も散見されたが、鬼怒田がもつと積極的に貧しい人のために尽力しようとしていることを読み取ろう。

(二)・(三)・(四) いずれも全体的によく読解できていた。

(五) 「採点基準」

「a渡米に関して自分が満足できるような確固たる目的がなかったが、b鬼怒田との会話により、c自由な生き方を目指そうという d考えが桑一郎の中で(d)まとまりかけていた」と説明して—— 14点
* a 6点、b 2点、c 3点、d 3点。

概ねポイントを押さえた答案が多いが、抜けが目

立つのはc「自由」という要素。「渡米の目的が明確になつてきた」などとするのはよいが、ではその目的は何なのかという点まで検討して、具体的に「自由」というキーワードを答案に盛り込もう。

(六) (ウ)を選ぶ誤答が多かった。もつともらしい選択肢に惑わされないようにしよう。本文のどこを根拠とできるか、選択肢と本文を照らし合わせて考えることが大切。

古文

(一) 全体的によい出来だったが、(c)はやや誤りが目立った。「尽く」の連用形にサ変動詞「す」が付いたものである。

(二) (x)は「(顔を)覆う」などとした誤答が多いが、「目十守る」という成り立ちであり、へじつと見つめる意。(y)「やさし」を現代語の「易しい」と解して「簡単に」などとする誤答が多い。ここの「やさし」は漢字で書くと「優し」で「優美だ」という意味。(z)は概ねよくできていた。

(三) 採点基準

「今朝は a 雪もひどく降り積もり嵐もたいそう激しいので、b 明日宮中に参上なさるのがよいという c 自分の娘の言葉は道理だ」と説明して——10点
* a 3点、b 3点、c 4点。

文脈をきちんと理解できている人が多かった。

(四) 和歌の内容をよく把握できていた。

(五) 採点基準

「a この世にありはて b ても c なにかはせん」を
「a この世にずっと生きてい b ても c 何になるだろうか、いや何にもならない」と訳して——8点
* a 3点、b 1点、c 4点。

「なにかはせん」は反語で「何になろうか、いや、何にもならない」の意味だが、ここを「何かをしよう」という意志とする誤答が散見された。文意が全く反対になり、前後の内容に合わない。

(六) 採点基準

「a 伊周が b 宮中に c 戻る」と説明して——6点
* a 2点、b 2点、c 2点。

概ねよい出来だが、「伊周が死ぬこと」という誤答が散見された。「雲居」の意味がわからず、雲に帰る↓死ぬと想像したのだろうか。(宮中)の意を覚えておこう。「伊周公を召し返さるべきよし君より仰せ下され、つひに都へ上り給ふ」とあることに着目すれば、伊周の死は描かれていないと判断できる。

(七) 誤答は各選択肢に分散した。解説をよく読んで復習しておこう。

(四) 漢文

(一) (a)・(c)はよい出来。(b)は難度の高い問題なので、この機会に読み方を覚えておこう。

(二)・(三) 概ねよくできていた。

(四) 採点基準

「a 従ふ(こと) b 無かる c べけんや(と)」と書き下して——4点
* a 1点、b 1点、c 2点。

少し前に「可無帰乎」とあることに着目し、読む順番は把握できている答案が多いが、「べけんや」の読み方が難しく、読めた人は少数だった。

採点基準

「a 従属し b ないでいられようか、いや、従属する(と)」と訳して——4点
* a 1点、b 3点。

前後の内容から、意味を正しくつかめている答案が多かった。

(五) 採点基準

「a 戦いに勝つよりも信義を守ることを貫いた b 文公は、c 王として信頼するに足ると考えた」と説明して——8点
* a 4点、b 1点、c 3点。

しっかり解答要素を押さえている答案がある一方、無解答や見当違いの答案などがあり、差がついた問題だ。

(六) 本文にある漢字を使用して紛らわしく作られた選択肢であり、惑わされた人が多かったようだ。